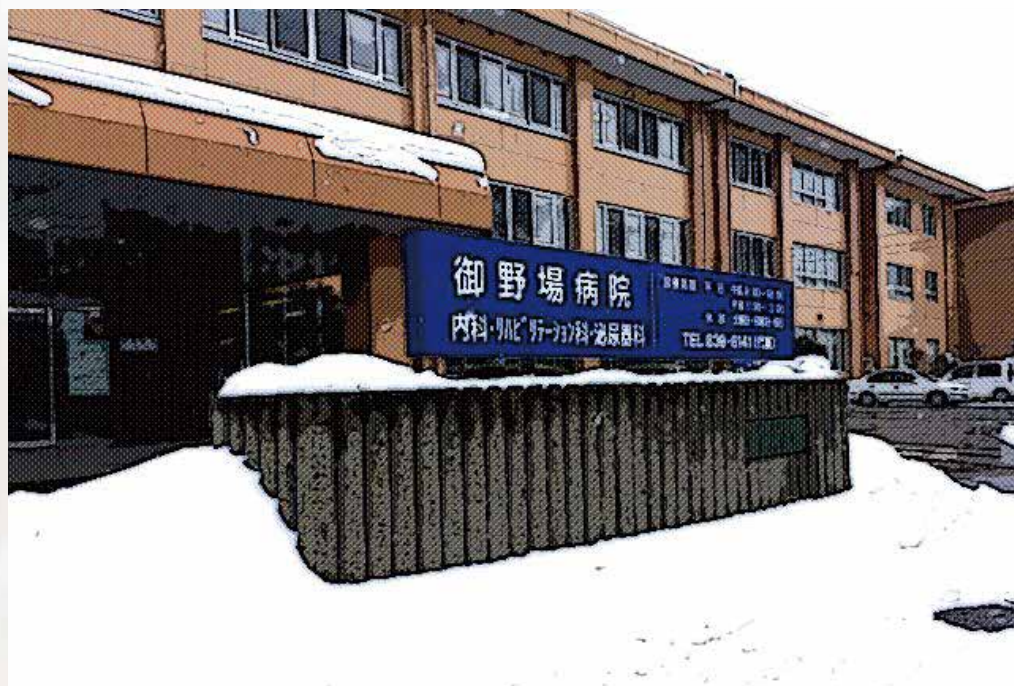


なおみ

理念

安全・信頼・連携・地域密着
私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。

「信頼され、選ばれる病院を目指して」



新しい年を迎えて

平成25年の漢字は 輪 オリンピック東京開催が決定し、1964年（昭和39年）に東京で開かれた第18回夏季オリンピックから56年ぶりの2020年（平成32年）に日本に再び五輪が訪れることとなりました。1964年のオリンピック開催に伴い、交通・社会インフラが大規模に整備され、その後の日本発展のための大きな起爆剤となりました。今回の東京オリンピックでも、経済効果、その後の日本発展に大いに期待したいものです。我が国に大きな打撃を与えた東北大震災の年の漢字は 絆 あれから3年、復興への支援と絆の輪は広がっていかねばなりません。東北楽天ゴールデンイーグルスが日本一に輝くなど、東北の注目を集める嬉しい知らせもあり、明るい話題が増えてきているように思いますが、まだまだ多くの支援が必要であることを私達は忘れてはいけません。平成26年も明るい話題で、多くの笑顔であふれる日本であることを願っております。

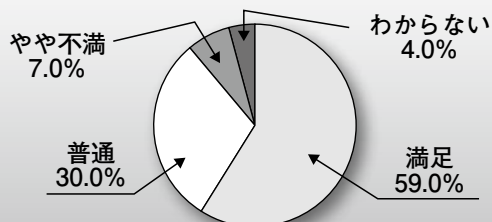




患者満足度調査を行いました。

昨年10月に、入院されている患者さんやそのご家族、外来患者さんを対象とした患者満足度調査アンケートを行いました。アンケート回収率は入院65%、外来90%と、多くの方々にご回答頂き、ご協力いただいた皆様にはこの場をお借りして、感謝申し上げます。

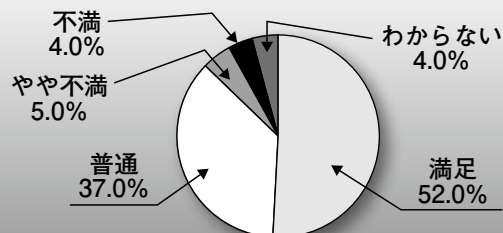
■院内の冷暖房・空調設備、清掃等の環境整備や衛生管理は良いと思いますか？



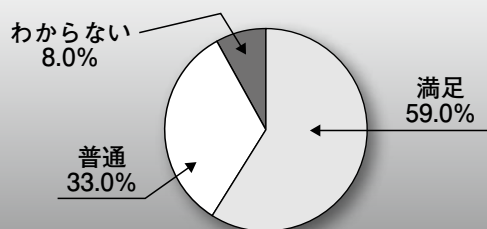
アンケートでは、入院時の職員対応や環境配慮、外来受診時の職員対応や待ち時間等について、ご回答頂きました。その中でも、外来の待ち時間に関して、診察終了から会計までの時間が長いとのご意見を頂きました。当院でもその点に関しては患者さんに大変ご迷惑をお掛けしていると反省しております。今後も、待ち時間の短縮を目指し、日々努力してまいります。

また、入院環境に関しても様々なご意見をいただき、今後の病院運営に活かしてまいりたいと思います。病棟設備に関しましては、リハビリ病棟食堂談話室に、洗面台を追加設置いたしました。当院は創立35周年を迎え、建物も老朽化が進んでおりますが、少しずつ改修を加え、きれいな病院・療養環境づくりを心がけております。今後も皆様からの貴重なご意見を参考にさせていただき、信頼され、選ばれる病院を目指してまいります。

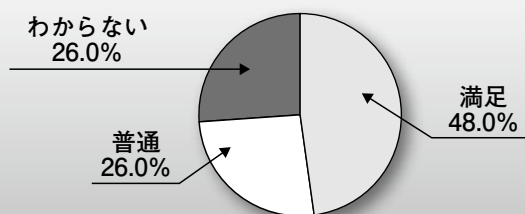
■病棟内は静かですか？



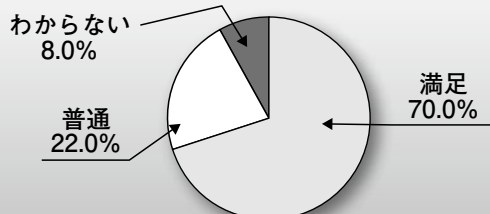
■病室の使い心地はいかがですか？



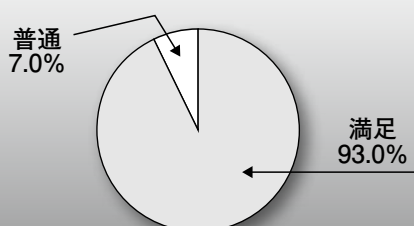
■浴室の使い心地はいかがですか？



■医師から受けた治療計画や治療経過等の説明には満足しましたか？



■当院のリハビリに満足していますか？



目標と通知表

小学校の頃。楽しい夏休みや冬休みを迎えるには乗り越えなければならない試練があった・・・通知表。これを①学校から持ち帰る。②親に渡す。③小言を突かれる。という一連の儀式が終え、ようやく長期休暇に入ることができた。

各教科の小項目ごとに「よくできる」「できる」「努力してほしい」の3段階評価。その他に担任の先生直筆のコメント欄。ここが特に親に小突かれるポイントで、忘れもしない「落ち着きがありません。人の話をよく聞きましょう」。

年に3度、学年が変われど、このコメント欄だけはいっこうに変わらず、親に同じ小言を突かれ続けることとなった・・・。

先日、中古本屋さんに出かけた際、お買い得なことも手伝って新書『聴く力 心をひらく35のヒント』を手にとった。著者は小説、エッセイ、テレビでも活躍される阿川佐和子さん。2012年1月の発売以来のロングセラー。ベストセラーとなった本だけにお読みになられた方もきっとおられるでしょう。

まだ修行中であるがと断ったうえで、これまでのインタビュアーとしての経験から人の話を上手に聞く

には？が書かれている。ハウツー本ではなく、これまでに体験したエピソードをふんだんに盛り込んだエッセイ風で、とても読みやすく面白く読み進められた。900人以上ものインタビューを続けてこられたが、今でも始まる前には緊張するというのが印象に残った。

昨年4月より医療相談室に勤務し、相談などお話を聞かせて頂くことを業務の中の大きなひとつとしている。面談での知識などは頭に入っているつもりでも、それを実践するのはまた別。そう痛感する日々。毎回、今回はうまくできるだろうかと不安になり焦り、それが相手に伝わってはいけないと、また焦り不安になり・・・。

上に挙げた阿川さんもまずは真剣に相手の言葉に集中すること。そこにコミュニケーションのヒントがあると書かれておられた。言い換えれば「傾聴」することになるだろうか。相談員2年目を迎えるにあたり、まずは改めてそこから始めようと新年早々誓いを立ててみる。

今、通知表を受け取ることになってもコメント欄の言葉はきっと・・・。

相談室 大坂谷

ノロウイルスにご注意ください。

ノロウイルスの集団感染等が最近取り上げられています。ノロウイルスは、大変感染力の強いウイルスでして、手洗いや消毒等をしっかりと行なうことが、感染拡大防止に効果的のようです。

夏季に増加する細菌類と違い、ノロウイルスは冬季にピークを迎えます。また、ノロウイルスは他の細菌類やウイルスに比べ小さいため、手のシワ等に入り込みやすいという特徴があります。手洗いは2度洗いが推奨されていますが、なかなかそこまで意識できていないのが現状だと思います。手を洗ったといっても、しっかりと洗えていなかったり、洗い流せていなかったりと、目に見えないウイルスへの対策は、簡単なようで難しいようです。

ノロウイルスの恐ろしいところは、その感染力にあるそうです。食品中などで増殖はしないのですが、体内に10個～100個ウイルスが入り込んでしまっただけで発症すると言われています。ノロウイルスの排出量は、1gにつき100万個から1億個。空気

中にもしばらく浮遊するそうです。ウイルスは様々なところに飛散し、ウイルスの付着物を介して体内に侵入してきます。

しっかり対処したつもりでも、様々なところにウイルスが付着している可能性があり、また症状がなくても保菌している場合がありますので、日頃から手洗い消毒等の対処を心がけることが感染防止に役立つと考えられます。ウイルスの飛散は半径2m、高さ1.6m程度と広範囲に及びますので、環境の消毒は広範囲に行う必要があるとされています。環境の消毒には次亜塩素酸ナトリウムが効果的であるとされており、汚物の周辺だけでなく、付近の壁や物など、広範囲にわたって消毒を行うことが推奨されます。

感染症の被害拡大防止には、日頃からの些細な心がけが重要です。まずは手軽にできる手洗い、うがい等から心がけていきましょう。

回復期 リハビリテーション病棟 の紹介

脳血管障害や骨折の手術などのため急性期中で治療を受け病状が安定し始めた時期に、集中的なリハビリテーションを行なうことで、低下した能力を再び獲得するための病棟を回復期リハビリテーション病棟と言います。当院では平成18年に開設し今年で9年目を迎えようとしています。

当病棟では回復期リハ対象の患者様に対して、機能の回復や日常生活に必要な動作の改善を図り、寝たきり防止と社会や家庭への復帰を目的とした、患者さんごとのリハビリテーショ

キーワードは

寝たきり防止

早期社会復帰

ADL向上

ンプログラムに基づき、医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士等が共同で集中的なリハビリテーションを提供しています。

私たちが日々行っていることは看護の基本であり、決して特別なことではなく「気付き」と「気遣い」から生まれるケアであると思っています。患者さんが少しでも不安なく自宅退院できるよう、他職種とのチームアプローチを図りQOLを向上できるよう日々取り組んでいます。



ナースセンター



食堂



リハビリ室



■リハビリテーションの実施例

	月	火	水	木	金	土
6時						
	リハビリ60分			リハビリ60分		
	入 浴	リハビリ60分	リハビリ60分	入 浴	リハビリ60分	リハビリ60分
12時						
	リハビリ60分	リハビリ60分	リハビリ60分	リハビリ60分	リハビリ60分	
	リハビリ60分	リハビリ60分	リハビリ60分	リハビリ60分	リハビリ60分	
18時						

リハビリ60分

※患者様の体力に合わせて1日最大3時間までのリハビリを組んでいきます。

入 浴

※お一人で入浴できる場合は、入浴回数を増やすことも可能です。



リハビリ室



浴 室

転倒にご注意ください。

今回の秋田の冬は、昨年に比べ雪が少なく、穏やかな冬であるような気がします。しかしながら、夕方から早朝にかけては急激に冷え込み、路面の凍結が目立つように思われます。そこで当コラムでは、凍った路面で転ばないためのコツや注意しなければいけないことを紹介します。長年厳しい冬を経験しておられる皆様ですから、自分は大丈夫、転ぶはずはないとお考えかも知れませんが、しかしながら、転倒による骨折で当院に入院される方もおられます。特に高齢者の方は大怪我につながる恐れがありますので、今一度ご確認いただければ幸いです。

まず、凍った路面を歩く際は、歩幅を小さく、靴の裏全体をつけて、ゆっくり余裕を持って歩くことが大切です。当たり前のことですが、このことを守れなかった時に、転倒してしまい、大事故につながってしまっているということです。急いでいる時や、両手に荷物を抱えている場合、何かに気を取られてしまっている時も、注意力が散漫になり、転倒の危険性が高まります。

これからもう少し寒い季節は続きます。気温が上がり始めた頃も、路面が滑りやすくなっています。何事にも、と言うのはすこし無理があるかもしれませんが、少しでも余裕を持って、行動するように心がけていただき、皆様どうかご安全にお過ごしいただければと思います。

雪やこんこ

尋常小学唱歌(1911年)の『雪(ゆき)』もう100年程前の歌であるというのをご存知でしょうか。この歌の歌い出し、「雪やこんこ」ですが、「こんこ」・・・つい最近まで雪やコンコンだと思っていました。「こんこ」の意味は、来い来い(来む(こむ) = 降れ)の意味だそうで、コンコンと積もる様子ではなかったのですね。小さいころかコンコンだと思っていました。幼いころの刷り込みというかなんというか・・・雪がコンコン降るというの、よく考えると変な表現です。

雪やこんこ あられやこんこ
降っては降っては ずんずん積もる
山も野原も わたぼうしかぶり
枯木残らず 花が咲く



雪やこんこ あられやこんこ
降っても降っても まだ降りやまぬ
犬は喜び 庭かけまわり
猫はこたつで丸くなる

県南地方では、突然の大雪に除雪が追いつかず、雪下ろしも十分にできず、屋根が潰れてしまった家屋も多くあるようです。雨や雪は自然資源を運び、感謝される存在ではありますが、危害を加えられてしまうと、感謝という言葉はなかなか浮かんでこないのかもしれませんが。秋田県の若者が減少していることや、ご近所付き合いが少なくなり、助け合いが少なくなっているのも、影響しているのかもしれない。どうか、これ以上被害が広がらないように、祈るばかりであります。

栄養科より



今回は、12月の茶話会についてご紹介します。

12月19日に行い、クリスマスも間近ということで、クリスマスケーキをご用意しました。

当日は、いつもの配膳車をクリスマス仕様に飾り付け、私たち栄養士もサンタクロースの帽子をかぶり、患者さんにケーキを配膳しました。栄養士の他に、介護スタッフもサンタクロースに扮し、患者さんにも大好評。

ケーキは、『いちごのケーキとショコラムースケー

キ』の二種類をお出しし、ケーキを召しあがることのできない患者さんには、『サンタのメルバ』と題し、苺とバナナのフルーチェを層にして、クリスマスらしく、柵を飾りました。

乳製品が苦手な方には、ゼリーを盛合せてお出しするなど、当院では患者さんの嗜好に配慮し、お食事を提供しております。

日に日に寒さが増しておりますが、体も心も温かなれるような、おいしい料理を提供していきたいと思っております。

きりたんぽ等も随時お出ししておりますので、お楽しみに!!

